

地域おこし協力隊通信

第1回



土浦市イメージキャラクター「つちまる」と



会場内を練り歩く「あやめ」と「佐藤隊員」



「茨ひより(茨城県公認Vtuber)」のコスプレイヤーと



今月のリポーター:

森山健吾隊員

皆さんこんにちは!!
潮来市地域おこし協力隊の森山です。着任から早10カ月。まもなく1年が経とうとしています。

さて、今月号より、「地域おこし協力隊通信」と題し、協力隊の活動紹介や協力隊が気になった人、場所、ものなどを独断と偏見で取り上げていきますので、ぜひご覧ください。

4月28日(日)幕張メッセにて開催された「ニコニコ超会議2019」で、潮来市のPR、5月25日(日)から開催される「あやめまつり」のPRを行ってききました。

当日は、水郷いたこ大使でもある「あやめ」と「水郷潮来あやめ娘」としても活動している佐藤隊員が会場内を練り歩きPR活動をしました。

2日間で16万人以上の方が来場した本イベント。そんな大規模なイベントで潮来をPRできたことは貴重な経験となりました。1人でも多くの方が潮来を知り、興味を持っていただくと同時に潮来に足を運んでくださると嬉しいですね。今後、PR活動を積極的に行っていききたいと思えます。

まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第42回

水郷の魚たちーテナガエビ

6月半ば、あやめ(花菖蒲)が咲き誇る前川には、嫁入り舟が通る光景をみるために多くの観光客が集まります。白無垢すがたの花嫁は、最近結婚された(する)方から選ばれているとのこと。通りすがりのお客さんたちが祝福しているのを見ると、こちらも幸せな気持ちになります。

水郷潮来あやめ園の南側にある大きな川は常陸利根川で、日本第2位の湖面積を有する霞ヶ浦の一部です。じつは、霞ヶ浦の水の中では、この時期にテナガエビのカップルも結婚シーズンを迎えています。

テナガエビは、大きさ5cmほどの暗褐色の淡水性エビ類(写真1)です。「テナガ」の名前は、オスの第二胸脚が長いこと由来します。この長い手は繁殖時にオスがメスを囲い込んで守るときに役立つことが知られています。私の研究室の卒業生滑川さんの研究によると、霞ヶ浦では梅雨時にたくさんの卵を抱えているメスが、入り江内の水辺植物帯に多く生息しています。カッブル成立後、卵からふ化した幼生は、沖合で数週間の浮遊生活を送った後に稚工



写真1: テナガエビのオス成体



写真2: 小エビのつくだ煮

ビになり、湖底付近のほか湖岸の植物帯周辺などで成長していきます。秋になると、霞ヶ浦では底引き網漁業によって、その年生まれの小さなテナガエビ(体色はまだ半透明)が大量に漁獲されています。漁獲量はなんと日本一で、潮来市内でも「川えび」や「ざざえび」として売られています。素揚げやかき揚げにすると小エビの風味が際立ち、ごはんや日本酒によく合います。つくだ煮屋さんの職人技が際立つ、色鮮やかなつくだ煮(写真2)も絶品。カルシウム、DHAやEPAなどの栄養分も豊富とのこと。この水郷らしいエビ食文化を、次の世代につなげていきたいところです。

茨城大学広域水圏環境科学
教育研究センター
加納光樹